湧水を活用した独特の文化形成推論

びわこ環境学科　　杉田薫　井ノ口昭雄　小篠伸二

寺澤孝之　中場弘二　中村一馬

1　テーマ選定の経緯

空気と水は無制限にあるもの、蛇口をひねると飲料水が全国津々浦々どこでも出て来る現代社会であるが、近未来、世界的な人口増加、食糧増産に伴い水の供給が困難となり、生活に支障をきたすと言われている昨今から「水」に焦点をあて、まずは、もう一度身近な水資源に対する先人たちの「想い」を検証して、古人の「知恵」も探ってみたく、このテーマの選定に至った。

「行き暮れて　なんとここらの　水のうまさは」

昭和１０年中信国境にて　俳人　種田山頭火

の句に想いを寄せ、古くから水の恵みを利用して育まれてきた滋賀の「くらしと文化」に焦点をあて　それに関わる「水」という観点から、将来の「水資源」の道標とならん「想い」を考察する。

２　はじめに

滋賀県は琵琶湖を有し、生活用水、農業用水、工業用水、さらには景観の構成要素として湖が重要な役割を果たしている。琵琶湖の水を支えているのは直接的降雨水に加え、集水エリアからの地表水、地下水である。特に琵琶湖周辺での山から湖に至る間で様々なエリアにおいて、地下水(湧水含め)、地表水が密接にかかわりあった風景と人とのつながりである「文化」を見ることができる。

４世紀以降、水田耕作の普及で定住生活となり、現有の土地を守るしかなかった時代を生き抜くために先人たちの想いは、命の源である水と共に生きること、豊かな自然の恵みを大事にすることであった。言い換えれば自然そのものに生かされることであった。

生活環境、自然環境において「水」は、重要な役割を果たしていたのだ。この先人たちの想い、育まれてきたくらしと文化の継承状況を、この眼で確かめ、今後何をなすべきかを考えてみたい。

３　具体的行動計画の策定

（１）　湧水を含め名水と呼ばれる地域、地点の実態調査(実地検分)を行う。

①湧水・名水と呼ばれる地域・地点のリスト作成
⇒リスト作成参考図書は滋賀県の代表的な湧水(環境省ＨＰ)、県下名水（ＨＰ）より都度新情報で追加。
⇒湧水調査表作成(調査日時・天気・データ測定値・場所由来・湧水の現状・現地写真)を地域・地点毎に作成。
⇒測定データ集計表作成(湧水量の多少・活用状況・測定データ　ｐＨ・ＴＤＳ・ＥＣ数値一覧表
⇒実態調査場所の地図化（ＭＡＰ化）を行う。
②県下有力都市水道水・市販ミネラルウォーターの数値把握比較。

(２) 水が重要要素であろう業種・職種の実態調査を行う。

①地酒酒造会社への水（仕込み水）の実態調査を行う。
⇒県下酒造組合加盟３２社のリスト作成。仕込み水への想いの実態調査。
②醤油製造業者及び豆腐製造業者の実態調査を行う。
⇒県下醤油組合加盟３０社・県下豆腐組合３９社のリスト作成。
*残念ながら所在地の MAP 記入までで詳細な実態調査はできず。
③ミネラルウォーター製造業者の実態把握を行う。
① ②　③共リストアップ後、湧水地域・地点ＭＡＰに所在地を記入する。

(３)　水との共生生活を堅持している地域文化圏の実態調査を行う。

①古より水によって育まれてきた生活文化の実態調査として
⇒米原東草野の山村景観　水路をサワと呼ぶ独自の水利用実態調査を行う。
⇒奥琵琶湖菅浦集落の歴史と水との関わり方実態調査。
⇒醒井地区居醒の清水の水との関わり方実態調査。

(４)　行動カレンダーに沿って

２０１７年９月～２０１８年５月にかけて県下の湧水９２か所８９地点の実態調査、酒造メーカー５社の見学ヒアリング、特徴ある地域文化圏３か所の実態調査を行い、逐次グループ内で討議を重ねながら集約作業を行った。

一日のフィールドワーク終了時には、必ず採取した湧水で沸かした美味しいコーヒーをたて、その香りを楽しみながら昔人の水への想いを語るひとときを過ごしました。

４　湧水の実態調査

(１) フィールドワークと集計作業

参考資料からのリストに基づき、毎回数か所を車に分乗して訪問、近くに住民からのヒアリングに心掛け、湧水調査集計**表１－1**、と**表１－２**にまとめた。

さらに個々の湧水それぞれについてその由来・現在の利用状況や管理状況・祭事に関する情報・付近写真を入れた湧水地点の実態を、個別湧水実態調査表としてまとめた。**表－２**に一例を示す。

国土地理院５万分の１の国土地図を貼り合わせた、滋賀県地図(約 1.8×2m)を作成した上で、調査地点マークをプロットし、個々の採水地点と種々のつながりを考える資料

としグループ討議に活用した。別にハンディサイズの縮小版も作成した。図－１。

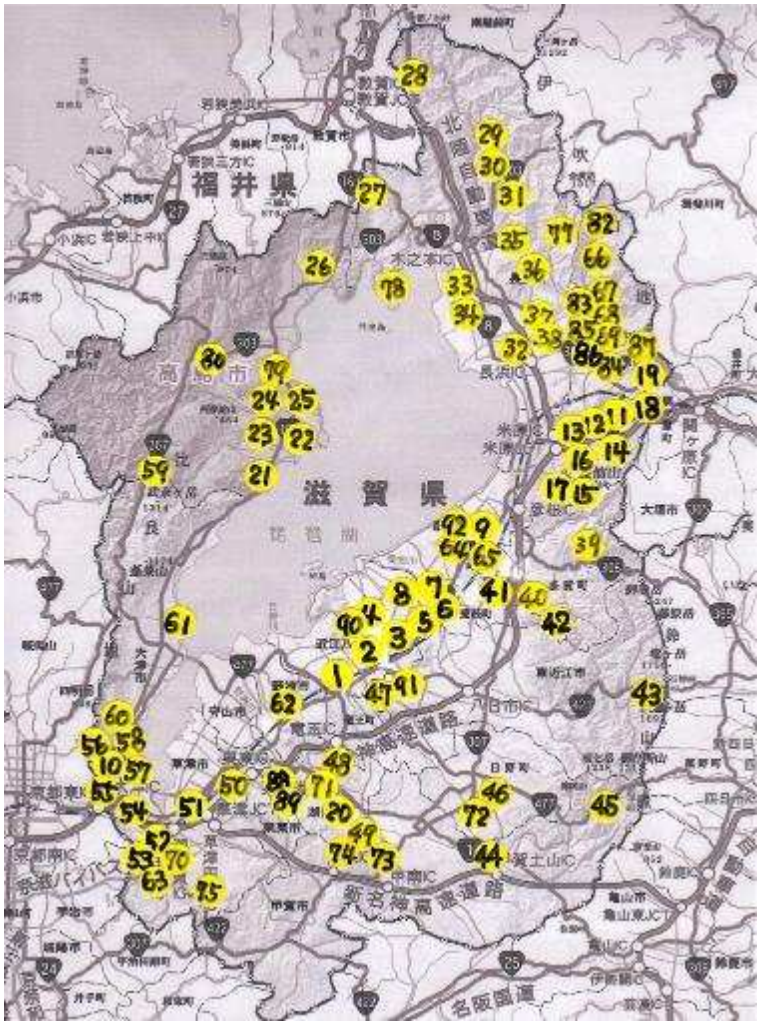
表１－１　湧水調査集計表１

※記入欄→地蔵、社の○は、有無を表す。有りは○　現状1は水量を表す。多量、中量、少量、微量　現状2は過去(P)用途を表す。①は灌漑用水、②は生活用水、③は飲料。
現状3は現在の用途①は灌漑用水、②生活用水、③飲料用途　現状4は整備状況を表す。秀(非常に秀でている)、優(非常に良い)、良(良い)、可(まあまあ)、不可(未整備)
現状5は、名水として近隣住民、他府県民が飲料用として利用しているの有無

NO	調査日	名　　称	場所	地蔵	社	現			状		気温	水温	pH	TDS	EC	備　考
						1-水量	2-P用途	3-T用途	4-整備	5-名水						
1	2017.10.11	若宮湧水	近江八幡市金剛寺町	○	○	中量	①②③	①	優	有	25	20.6	5.1	81	153	
2	2017.10.11	浅小井湧水(あさごい)	近江八幡市浅小井町	○	○	中量	①②③	①	良		26	21.6	5.4	91	179	
3	2017.10.11	北川湧水(喜多川)	近江八幡市安土町常楽寺	○	○	少量	②③	②③	優	有	26	19.4	5.5	177	237	
4	2017.10.11	音堂川湧水	近江八幡市安土町常楽寺	○		少量	②③		良		26	19.3	5.7	85	159	
5	2017.10.11	清水鼻の水	東近江市五個荘町清水鼻	○	○	少量	②③	②③	良	有	19	18.8	5.3	19	43	
6	2017.10.11	繖(きぬがさ)の名水	東近江市五個荘町北町屋			不明	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	
7	2017.10.11	ハリヨの里あれぢ	東近江市五個荘町宮荘町	○	○	少量	①②③		良		26	18.4	6.4	44	91	
8	2017.10.11	繖(きぬがさ)トンネルの水	東近江市五箇荘町北須田	○		多量		①②③	優	有	25	19.1	6.8	69	141	
9	2017.10.15	十王村の水	彦根市西今町	○	○	中量	①②③	②③	優	有	16	16.0	6.1	88	187	
10	2017.10.30	円満院門跡の湧水	大津市園城寺33	○		少量	③	③	優	有	16	11.0	7.3	64	133	
11	2017.11.2	居醒(いざめ)の清水	米原市醒井58	○	○	多量	①②③	①②③	優	有	15	14.5	6.9	81	175	
12	2017.11.2	十王水	米原市醒井	○		多量	①②③	①②	優		15	15.2	7.0	105	276	
13	2017.11.2	西行水	米原市醒井	○		中量	①②③	①②	優		15	14.5	7.1	126	264	
14	2017.11.2	天神水(醒井湧水群)	米原市枝折	○	○	多量	①②③	①②	優		15	14.5	7.1	86	235	
15	2017.11.2	いぼとりの水	米原市上丹生	○		少量	①②	①②	優		18	16.3	5.2	23	49	
16	2017.11.2	役の行者の斧割り水	米原市上丹生	○		中量	①②③	①②③	優	有	16	14.8	7.5	80	175	
17	2017.11.2	岩清水湧水	米原市上丹生			中量	①②③	①②③	可	有	16	14.5	6.9	34	78	
18	2017.11.2	白清水(しらしょうず)	米原市山東町柏原			少量	①②	①	可		19	16.1	5.0	23	49	
19	2017.11.2	大清水泉神社	米原市大清水	○	○	多量	①②③	①②③	秀	有	19	12.5	7.3	111	235	
20	2017.11.7	不動の泉「金命水」	湖南市三雲	○		中量	①②③	①②③	優	有	15	15.0	7.8	27	52	
21	2017.11.14	白髭神社ご神水	高島市鵜川		○	少量			優		11	15.3	7.0	43	91	
22	2017.11.14	三尺の泉	高島市安曇川町上小川	○	○	少量	③	③	優	有	11	15.3	6.4	46	87	
23	2017.11.14	秋葉の水(瓜割の水)	高島市中野秋葉神社	○	○	少量	①②③	①②③	可	有	11	15.5	5.3	22	48	
24	2017.11.14	生水の郷(針江)	高島市新旭町針江	○	○	多量	①②③	①②③	優	有	12	14.1	6.8	31	66	
25	2017.11.14	生水の郷(針江)上原豆腐店	高島市新旭町針江			多量	①②③	①②③	優	有	12	14.1	6.9	30	60	
26	2017.11.14	知恵の水(御神水)	高島市マキノ町	○	○	少量	②③	②③	優	有	12	15.3	7.7	89	187	
27	2017.11.14	深坂地蔵堀止めの水	長浜市西浅井町沓掛	○	○	中量	②③	②③	優	有	12	12.6	7.3	25	52	
28	2017.11.14	己知(こち)の冷水	長浜市余呉町中河内	○		中量	①②③	①②③	良	有	12	14.1	6.8	30	60	
29	2017.11.14	洞寿院の滝水	長浜市余呉町菅並洞寿院内	○	○	多量	①②③	①②	優		12	11.9	7.3	33	70	
30	2017.11.14	胡桃の名水(くるみ)	長浜市余呉町菅並			中量	①②③	①②③	良	有	12	13.6	7.6	54	118	
31	2017.11.14	川合の自噴井戸	長浜市木之本町川合			少量	①②③	①	良		12	14.5	7.3	50	108	
32	2017.11.14	八幡神社御神水	長浜市宮前町		○	中量	①②③	①②③	優	有	12	18.1	7.6	116	208	
33	2017.12.01	正妙寺の水源	長浜市高月町西野	○	○	中量	①②③	①②③	優	有	10	14.3	7.0	50	106	
34	2017.12.01	海老江の自噴水	長浜市湖北町海老江		○	中量	①②③	①②③	優	有	10	13.5	7.5	55	139	
35	2017.12.01	天皇の水(てんおーの水)	長浜市高月町馬上		○	少量	①②③	①	不可		8	14.3	7.7	112	234	
36	2017.12.01	和泉神社みたらし(御手洗)	長浜市湖北町上山田		○	中量	①②③	①②③	優	有	8	12.8	7.3	86	192	
37	2017.12.01	泉殿の瀧(内保七泉)	長浜市浅井町内保地区	△	△	-	①②③	①②	可		8	13.1	7.4	46	101	
38	2017.12.01	神照寺自噴水	長浜市神照寺町(かみてるてらまち)	○	○	中量	②③	②③	優	有	8	14.5	7.5	79	139	
39	2017.12.15	佐目の出壺	多賀町佐目	○		中量	②③	②③	可	有	0	4.5	8.0	112	243	
40	2017.12.15	大日池湧水	甲良町正楽寺		○	少量	①②③	②	可		3	12.3	6.4	42	87	
41	2017.12.15	軽野湧水群	愛荘町軽野	○	○	中量	①②③	②③	良		5	15.5	6.5	52	113	
42	2017.12.15	山比古湧水	愛荘町松尾寺地先	○		多量	①②③	②③	優	有	2	7.0	7.0	25	52	
43	2017.12.15	名水　京の水	東近江市黄和田町	○		多量	②③	②③	優	有	3	13.3	7.0	20	44	
44	2018.1.15	御場泉(おばんせん)	甲賀市土山町			少量	①②③	①	不可		1	14.0	4.8	124	270	
45	2018.1.15	若宮神社の湧水	甲賀市土山町大河原1092		○	中量	①②③	①②	優	有	0	4.0	6.5	34	75	
46	2018.1.15	若宮清水	日野町大字村井横町	○		少量	①②③	①②	良		5	10.0	7.0	69	120	
47	2018.1.15	神鏡水(御澤神社)	東近江市上平木町	○		中量	①②③	②③	優	有	3	14.0	6.1	91	185	
48	2018.1.15	善水元水(ぜんすいもとみず)	湖南市岩根3518	○	○	少量	②③	②③	優	有	4	10.0	5.7	29	60	
49	2018.1.15	不動の泉「金命水」	湖南市三雲	○		中量	①②③	①②③	優	有	4	2.0	7.1	34	72	
50	2018.1.15	小汐井神社(おしおい)	草津市大路		○	少量	①②③	②③	優		8	15.0	6.3	107	185	
51	2018.1.15	建部大社の湧水	大津市神領1丁目		○	中量	②③	②③	優	有	0	4.0	7.2	44	103	
52	2018.1.15	岩間の水	大津市石山畑町	○	○	少量	①②③	②③	良	有	-2	0.0	7.5	19	35	
53	2018.1.15	岩間寺雷神霊水	大津市石山畑町		○	少量	①②③	②	良		-4	1.0	7.0	36	82	
54	2018.1.15	走井の水	大津市逢坂			少量					—	—	—	—	—	
55	2018.1.15	摂取院の湧水	大津市追分町	○	○	中量	①②③	②③	優	有	2	0.0	6.5	26	48	
56	2018.1.15	源照寺の湧き水	大津市藤尾奥町			少量	①②③	②③	優	有	6	8.0	6.8	65	139	
57	2018.1.15	安養寺の湧水	大津市逢坂山		○	中量	①②③	②③	優	有	5	12.0	6.5	54	120	
58	2018.1.15	長等山不動明王の水	大津市長等公園	○	○	中量	①②③	②③	優	有	5	7.0	7.6	38	58	
59	2018.1.15	葛川栃尾の湧水(水地蔵)	大津市葛川栃尾	○	○	中量	①②③	②③	優	有	-3	11.0	6.9	32	58	
60	2018.1.29	宇佐神宮金殿井霊泉	大津市滋賀里		○	—	①②③	—	良				—	—	—	
61	2018.1.29	大道家の井戸水	大津市小野	○		少量	①②③	②	優	有			7.0	91	194	
62	2018.2.10	御上神社手水	野洲市三上838		○	少量	②③	③	優		6		4.5	90	187	
63	2018.1.25	地元ﾐﾈﾗﾙｳｵｰﾀｰ製造	大津市石山平津町		○	大量		③	優	有			7.0	19	39	販売品のﾐﾈﾗﾙｳｵｰﾀｰ
64	2018.2.12	地元A酒造(酒造ﾒｰｶｰ)	愛荘町長野		○	大量	③	③	優	有	2	14.0	5.0	97	220	井戸
65	2018.2.12	地元B酒造本家(酒造ﾒｰｶｰ)	豊郷町吉田		○	大量	③	③	優	有	2	11.2	4.8	78	213	井戸

表１－２　湧水調査表１の続き

NO	調査日	名　　称	場所	地蔵	社	現　　状					気温	水温	pH	TDS	EC	備　　考
						1-水量	2-P用途	3-T用途	4-整備	5-名水						
66	218.2.26	奥伊吹　甲津原交流センター	米原市甲津原			大量	①②	①	優		10	8.0	7.2	16	31	
67	218.2.26	奥伊吹行徳寺横湧水	米原市甲津原	○	○	大量	①②③	①②	良		10	8.0	7.1	16	21	
68	218.2.26	白山神社	米原市曲谷	○	○	少量	①②③	①②	良		10	8.0	5.9	21	44	
69	218.2.26	観行寺	米原市甲賀	○	○	無し					－	－	－	－	－	水場に水なし
70	2018.3.18	石山寺	大津市石山寺	○	○	中量	②③	③	優	有	12	15.3	6.8	40	81	
71	2018.3.30	地元酒造C(酒造メーカー)	湖南市針756		○	大量	③	③	優	有	18	15.0	6.3	19	44	井戸(地下400m)
72	2018.3.30	地元酒造D(酒造メーカー)	甲賀市水口町伴中山		○	大量	③	③	優	有	18	16.3	6.6	116	263	井戸(地下5m)
73	2018.3.30	長楽寺(天満宮井戸)	甲賀市甲南町塩野		○	中量	②③	③	優		18	15.0	6.3	23	51	
74	2018.3.30	飯道神社	甲賀市信楽町		○	中量	②③	③	優	有	20	18.0	6.2	30	57	
75	2018.3.30	耳だれ不動	大津市大石富川町		○	少量	②③	③	良		18	16.9	5.8	17	34	
76	2018.4.6	深坂地蔵堀止めの水	長浜市西浅井町沓掛	○	○	中量	②③	②③	優	有	18	12.7	8.0	24	51	*11/14訪問済み
77	2018.4.6	堂来清水	長浜市高山町字堂来		○	大量	①②③	①②③	優	有	18	16.3	8.2	41	87	
78	2018.4.18	須賀神社手水	長浜市西浅井町菅浦		○	少量	②③	②③	優	有	0	0.0	0.0	0	0	
79	2018.4.18	地元酒造E(酒造メーカー)	高島市新旭		○	大量	③	③	優	有	0	0.0	0.0	0	0	
80	2018.4.18	朽木温泉てんくうの湯	高島市朽木			大量	②	②	優		0	0.0	0.0	0	0	
81	2018.4.18	葛川栃尾の湧水(水地蔵)	大津市葛川栃尾	○	○	中量	①②③	②③	優	有	18	16.5	6.5	25	57	*NO59と同じ
82	2018.5.22	奥伊吹スキー場(姉川源流)	米原市甲津原			中量	①②	①②			21	15.2	7.7	11	22	
83	2018.5.22	与久郎滝	米原市曲谷			大量	①②	①②			23	17.3	7.3	21	44	
84	2018.5.22	間田(はざまだ)湧水群	米原市間田			大量	①	①			23	20.4	7.6	137	287	
85	2018.5.22	奥泉口の湧水	米原市小泉町			中量	①②	①②			23	21.0	8.0	99	208	
86	2018.5.22	長命観音の彗泉	米原市小泉町	○	○	少量	①②③	①②③	良	有	23	18.2	7.9	110	230	
87	2018.5.22	ケカチの湧水	米原市上野町		○	中量	①②③	①②	良	有	23	18.0	7.9	79	168	
88	2018.5.28	九品の滝(くぼんのたき)	栗東市荒張			中量	①	①			23	15.0	8.1	52	104	
89	2018.5.28	九品の滝入口への道路脇	栗東市荒張			少量	①	①			23	12.0	7.1	27	48	
90	2018.5.28	大江水(大江観音堂)	近江八幡市北ノ庄	○	○	少量	①②	①	良		20	13.0	6.9	26	55	
91	2018.5.28	不二(ふじ)の滝	近江八幡市長光寺町		○	少量	①	①	良		22	14.0	7.6	35	77	
92	2018.5.28	甘呂(かんろ)神社の手水	彦根市甘呂町		○	少量	①	①			20	14.0	7.4	85	189	



図－１
採水地点の
プロットＭＡＰ

表-2　個別湧水実態調

査表一例

[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
11	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

（２）　湧水の所在場所からの分類

湧水調査全場所を所在場所別に表した。　　表－３

Aは、旧街道筋の湧水
Bは、神話発祥での神社内の霊水・神水と呼ばれる湧水
Cは、地元寺社仏閣境内での霊水・神水と呼ばれる湧水伝説含む。
Dは、地元密着した「命の水」「生活の水」として利用されていた。
農作利用度が大。
Eは、その他(ﾄﾝﾈﾙ工事時に噴出、他　酒造会社分もE分類)

NO	名　　称	A	B	C	D	E
1	若宮湧水			●		
2	浅小井湧水(あさごい)				●	
3	北川湧水(喜多川)				●	
4	音堂川湧水				●	
5	清水鼻の水	●				
6	繊(きぬがさ)の名水				●	
7	ハリヨの里あれぢ				●	
8	繊(きぬがさ)トンネルの水					●
9	十王村の水				●	
10	円満院門跡の湧水		●			
11	居醒(いざめ)の清水	●	●			
12	十王水			●		
13	西行水				●	
14	天神水(醒井湧水群)				●	
15	いぼとりの水				●	
16	役の行者の斧割り水		●			
17	岩清水湧水	●				
18	白清水(しらしょうず)		●			
19	大清水泉神社	●	●			
20	不動の泉「金命水」	●				
21	白髭神社ご神水		●			
22	三尺の泉				●	
23	秋葉の水(瓜割の水)			●		
24	生水の郷(針江)				●	
25	生水の郷(針江)上原豆腐店				●	
26	知恵の水(御神水)		●			
27	深坂地蔵堀止めの水	●				
28	己知(こち)の冷水	●				
29	洞寿院の滝水			●		
30	胡桃の名水(くるみ)	●				

NO	名　　称	A	B	C	D	E
31	川合の自噴井戸					●
32	八幡神社御神水			●		
33	正妙寺の水源			●		
34	海老江の自噴水			●		
35	天皇の水(てんおーの水)				●	
36	和泉神社みたらし(御手洗)			●		
37	泉殿の淵(内保七泉)				●	
38	神照寺自噴水			●		
39	佐目の出壺	●				
40	大日池湧水			●		
41	軽野湧水群				●	
42	山比古湧水					●
43	名水　京の水	●				
44	御場泉(おばんせん)		●			
45	若宮神社の湧水		●			
46	若宮清水			●		
47	神鏡水(御澤神社)			●		
48	善水元水(ぜんすいもとみず)			●		
49	不動の泉「金命水」	○	重複			
50	小汐井神社(おしおい)			●		
51	建部大社の湧水		●			
52	岩間の水	●				
53	岩間寺雷神霊水			●		
54	走井の水	●				
55	摂取院の湧水			●		
56	源照寺の湧き水			●		
57	安養寺の湧水			●		
58	長等山不動明王の水			●		
59	葛川栃尾の湧水	●				
60	宇佐神宮金殿井霊泉			●		

NO	名　　称	A	B	C	D	E
61	大道家の井戸水				●	
62	御上神社手水			●		
63	石深水(ｲﾜﾌｼﾐｽﾞ)ﾐﾈﾗﾙｳｵｰﾀｰ製造					●
64	藤居本家(酒造ﾒｰｶｰ)					●
65	岡村本家(酒造ﾒｰｶｰ)					●
66	奥伊吹　甲津原交流ｾﾝﾀｰ				●	
67	奥伊吹行徳寺横湧水				●	
68	白山神社			●		
69	観行寺			●		
70	石山寺			●		
71	地元酒造C(酒造ﾒｰｶｰ)					●
72	地元酒造D(酒造ﾒｰｶｰ)					●
73	長楽寺(天満宮井戸)			●		
74	飯道神社		●			
75	耳だれ不動			●		
76	深坂地蔵堀止めの水	○	重複			
77	堂来清水			●		
78	須賀神社手水		●			
79	地元酒造E(酒造ﾒｰｶｰ)					●
80	朽木温泉てんくうの湯				●	
81	葛川栃尾の湧水(水地蔵)	○	重複			
82	奥伊吹ｽｷｰ場(姉川源流)				●	
83	与九郎滝				●	
84	間田(はざまだ)湧水群				●	
85	奥泉口の湧水				●	
86	長命観音の彗泉	●				
87	ケカチの湧水	●				
88	九品の滝(くぼんのたき)				●	
89	九品の滝入口への道路脇				●	
90	大江水(大江観音堂)			●		
91	不二(ふじ)の滝				●	
92	甘呂(かんろ)神社の手水			●		

*A,B重複2箇所あり(11,19)。場所重複3箇所あり(49,76,81)。

湧水所在場所の活用状況を下記Ａから Ｅの５分類に集計した。　　表-４

Ａ	旧街道筋の湧水 ◇街道を行きかう人々・輸送手段であった牛・馬の休息場所。 今風には一種のガソリンスタンド的場所　宿場途中のﾄﾞﾗｲﾌﾞｲﾝとしての水場。	15
Ｂ	神話発祥での神社内の霊水・神水と呼ばれる湧水 ◇神話・伝説・伝承の舞台。霊験新たかな霊水・霊泉。 為政者が神を祀り、神社の権威付け、権力の象徴としての場所。	12
Ｃ	地元寺社仏閣境内での霊水・神水と呼ばれる湧水 ◇地元に密着した信仰の対象としての寺社境内の湧水。 自然への崇拝、村の守り神 「鎮守の森」的感覚。特に農作関係への祈り。	29
Ｄ	各地域での生活湧水(飲料・生活・灌漑用途)地域民話伝説含む ◇地元に密着した「命の水」「生活の水」として利用させていた。 地元伝説も含め水への崇拝。自然への崇拝、特に農作利用度大。	26
Ｅ	その他 ◇分類Ａ－Ｄ以外の湧水 トンネル工事時に噴出した等。*地元ミネラルウォーター、酒造Ｍ分　6箇所含む	9

*分類が重複している箇所、２箇所あり。(分類計91)

① 分類Ａ　旧街道筋にある湧水　　１５箇所

旧街道筋、特に峠付近に良質水場が現在も存在している。旧街道は現在の国道と同じ地点多し。今も水場の保全管理は地域住民の手で行われ、杓、コップ、清掃用具も準備されている所が多い。但し、飲料水としての利用は自己責任のようだ。

表－５と図－２に旧街道筋の湧水地点をまとめて示した。

NO	名　称	旧街道名
5	清水鼻の水	中山道
11	居醒の清水	中山道
17	石清水湧水	中山道脇道
19	大清水泉神社	中山道脇道
20	不動の泉「金命水」	東海道
27	深坂地蔵駐止めの水	塩津街道
28	己知(こち)の冷水	北国街道
30	胡桃の名水(くるみ)	北国街道
39	佐目の出壷	彦根街道
43	名水　京の水	八風街道
52	岩間の水	信楽道
54	走井の水	東海道
59	鳥川板屋の湧水	若狭街道
86	長命観音の慈泉	奥伊吹街道
87	ケカチの湧水	北国街道

●特に、一見の価値ある地点は福井県境の深坂峠の「深坂地蔵駐止めの水」と呼ばれているところである。平安時代からの街道で日本海側の産物を敦賀から近江塩津経由で琵琶湖を通る京都への黄金街道。平清盛がこの地帯に運河を計画断念した経緯もあるくらいの古の街道筋。現在も車の往来は不可能であるが、徒歩散策には旧間屋跡もあり古人を偲ぶには絶好の街道である。

図－２

②分類Ｂ　神話発祥に類する神社内の霊水呼ばれる湧水　　１２箇所

「水」は貴重な自然からの賜り物であって「水」が湧出する場所こそが霊験新たかな場所であり、その場所に神社仏閣を建立したのではなかろうか。為政者は神を祀り寺社の権威付け権力の象徴を演出する舞台であった。下記　表-6 に示した。

NO	名称	由　　来
10	円満院門跡の湧水	140余才の長寿が叶う三天皇誕生産湯由来
11	居醒（いざめ）の清水	日本武尊が熱病より治癒の霊水
16	役の行者の斧割り水	約1300年前、役の行者がお堂建設時に斧で
18	白清水（しらしょうず）	玉の井呼ばれ日本武尊の傷治癒
19	大清水泉神社	伊吹の大神「水の神」が祀ってある。
21	白髭神社ご神水	倭姫命により建立。白髭神社総本山

NO	名称	由　　来
26	知恵の水（御神水）	海津天神社　主祭神は菅原道真
44	御場泉（おばんせん）	天照大御神のご神霊に供えられた命の水伝説
45	若宮神社の湧水	御祭神は月読命社伝では奈良時代初期
51	建部大社の湧水	日本武尊を御祭神として祀る。
74	飯道神社湧水	祭神穀物神「宇賀御魂神弁財を習合して祀る
78	須賀神社手水	淳仁天皇御隠棲宮伝承

③分類Ｃ　地元の神社仏閣での境内の霊水・神水と呼ばれる湧水　　２９箇所

「水」を制している者こそが為政者となり得た。また現生を去っても神として地元神社に祀られ永遠に名を残せた。稲作が定住生活での運命共同体であった集落の安息日は四季折々の節目を祝う「祭り」であった。この「祭り」の中心に神社があり、「霊水・神水」が存在していた。　　下記　　表－７に示した。

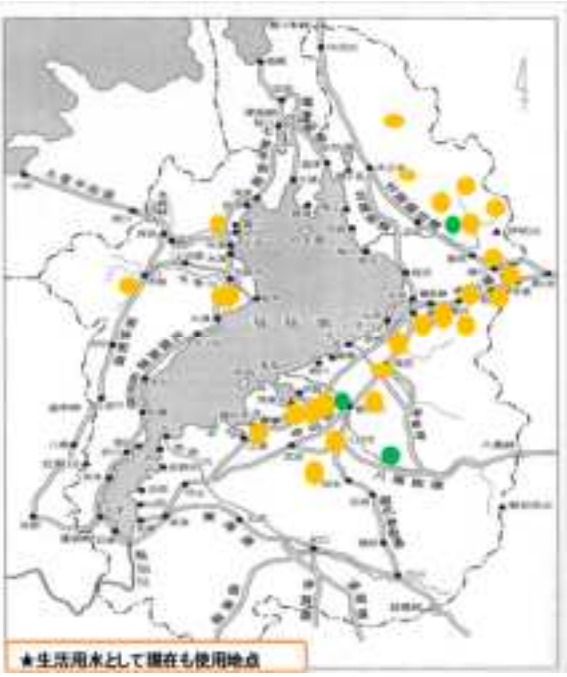
NO	名　　称	由　　来
1	若宮湧水	若宮神社を有し、「古の湧水地」として祀る
12	十王水	天台宗高僧浄蔵法師が開設
23	秋葉の水(瓜割の水)	秋葉神社境内より
29	洞寿院の滝水	湖北の古刹、曹洞宗洞寿院より
32	八幡神社御神水	石清水八幡宮を勧進して創建
33	正妙寺の水源	日枝神社境内より池を掘り正妙寺へ
34	海老江の自噴水	小江神社境内
36	和泉神社みたらし(御手洗	和泉神社境内
38	神照寺自噴水	神照寺境内
40	大日池湧水	勝楽寺境内
46	若宮清水	若宮神社境内
47	神鏡水（御澤神社）	御澤神社境内
48	善水元水(ぜんすいもとみ	善水寺境内
50	小汐井神社（おしおい）	小汐井神社境内
53	岩間寺雷神霊水	岩間寺境内

NO	名　　称	由　　来
55	摂取院の湧水	摂取院境内
56	源照寺の湧き水	源照寺の裏山
57	安養寺の湧水	安養寺の裏山
58	長等山不動明王の水	長等山不動明王の裏山
60	宇佐神宮金殿井霊泉	宇佐神宮山麓
62	御上神社手水	御上神社境内
68	白山神社	白山神社境内
69	甲津原観行寺湧水	観行寺境内
70	石山寺湧水	大津石山寺境内
73	長楽寺天満宮井戸	甲賀塩野長楽寺境内
75	耳だれ不動の水	岩屋耳不動尊石仏横
77	堂来清水	堂来地蔵尊裏山
90	大江水(大江観音堂)	大江観音堂横
92	甘呂神社の手水	甘呂神社の手水

④　分類Ｄ　各地域での生活用水としての役割の湧水　　２６箇所

(飲料、生活・灌漑用途)地域民話伝説を含む。地元に密着した「命の水」「生活の水」として利用。自然への崇拝も含め特に農作用途に活用された。下記 表-8 図-3

NO	名　称	由　　来
2	浅小井湧水(あさごい)	田丸砂川の河川敷の湧水。水遊にも利用
3	北川湧水(喜多川)	西の湖へ流れ込む湧水。
4	音堂川湧水	以前は茶の湯にも利用。
6	繊(きぬがさ)の名水	観光センターが水利用
7	ハリヨの里あれち	荒地を改良するための湧水利用
9	十王村の水	母乳の神様、水神・竜神
13	西行水	西行法師の母子塚
14	天神水(勝井湧水群)	天満宮を祭り天神水・知恵の水　湧量用途大
15	いぼとりの水	法性坊聖洗いの水、おできやあせも薬用
22	三尺の泉	藤樹書院の脇り抜き井戸が由来
24	生水の郷(新江)	生水(しょうず)と呼び「かばた」システムとして
29	生水の郷(新江)上原豆腐店	同上
35	天童の水(てんどーの水)	仙人の病平復伝説に由来
37	泉殿の湧(内藤七泉)	荒地湧量用に苦労。湧水が出て田植喜う
41	桂野湧水群	宇曽川流域の湧地群。かばた的に水活用
51	大道寺の井戸水	昔は醸造業、湧水時に豊富な水量
56	奥伊吹平津原交流センター	豊富な量湧け水。生活用水として利用
57	奥伊吹行基寺横湧水	豊富な量湧け水。生活用水として利用
60	杉木温泉てんくうの湯	温泉施設に利用(地下汲み上げ水泉)
62	奥伊吹スキー場	姉川源流
63	与九郎滝	姉川支流
64	開田の湧水群	伊吹山からの湧水、灌漑用
65	高草口の湧水	伊吹山からの伏流水
68	九品の滝	灌漑用
69	九品の滝入口道路横	滝壁からしみ出ている程度
81	不二の滝	灌漑用途が主か？



⑤　分類Ｅ　その他　　９箇所

分類Ａ～Ｄ以外の湧水。トンネル工事時に湧出した等　　図-3 ● ﾏｰｸで表記。

表－９　分類Ｅの湧水

NO	名称	由　　来
8	繊(きぬがさ)トンネルの水	繊トンネルを掘る工事時に出水してきた湧水
31	川合の自噴井戸	川合地区は自噴井戸多し。今は雑水利用のみ
42	山比古湧水	宇曽川渓谷の景勝地。ｷｬﾝﾌﾟ等憩いの場

*NO-63,64,65,71,72,79の地元ﾐﾈﾗﾙｳｵｰﾀｰ、酒造ﾒｰｶｰ分は除く。6箇所

（３）　湧水の利用状況について

現地の調査観察から信仰に関する情報、水量の実態、整備状況、水採取利用状況、水質検査情報、について**表－１０**に示した。　　表－１０

調査数　92箇所89地点

分類項目	状　　況				結果及び感じたこと
◇信仰心	①地蔵尊and観音様(社)		31		●水場にある「お地蔵さん」とは？ お地蔵さんの正式な名前は、地蔵菩薩という。 お地蔵さんのよだれかけは、子供の無事な成長を願う親の気持ちの表れ。 お地蔵さんには、子供を守ってもらうことに限らず、あらゆる願い事を頼む。 お地蔵さんは、道祖神信仰と結びつくことによって、広まっていった。
	②地蔵尊のみ設置	15			
	③観音様(社)のみ設置	27			
	④地蔵尊or観音様(社)		42	73	
	⑤どちらも設置してない		16	16	
	調査地点合計		89	89	
◇ 湧き出ている水の量	①超多量(100t/h以上)			1	●地面に浸み込んだ雨水がいくつもの地層で濾過され、水を通しにくい層の上で地下水として流れ、地形の影響を受け、地表に噴き出るものが湧水であり、水量はは地形、地層等の影響が大きい。 ●水量の多かった地点は、*大清水泉神社 *繖トンネルの水 *山比古湧水 *名水　京の水 *居醒の清水 *天神水　*生水の郷
	②多量 (5t/h程度以上)			22	
	③中量			31	
	④少量			32	
	⑤微量・なし・不明			3	
	調査地点合計			89	
◇整備状況	秀(特に秀でている)			1	●神社境内にあるものは、社寺仏閣管理者が明確であるが、その他旧街道筋等の地点においては、地域住民の貢献が可否を握っている。 ●自己責任とは言え、飲料用途として汲み帰っているとみられる地点は52/82 *汲み帰り人が多かった地点として ・大清水泉神社(米原) ・京の水(東近江) ・御澤神社の神鏡水(東近江) 長等山不動明王の水(大津) ・建部大社(大津) ●水質検査証(写)が貼付されている箇所は下記。(但し今現在の保証は未定) ・若宮湧水(近江八幡)・円満院門跡の湧水(大津)・大清水泉神社(米原) 生水の郷(高島)・岩清水(大津)・京の水(東近江)・神鏡水(東近江)
	優(非常に良い)			53	
	良(良い)			20	
	可(まあまあ)			6	
	不可(未整備)			9	
	不明(確認できずも含め)			1	
	調査地点合計			89	
◇名水評価 人が持ち帰っている				52	
◇水質試験書が貼っている地点				7	

5　「推論」として新たに見えてきたこと

(1)　集落での信仰と水の結びつき

神社は大抵　山の麓、集落の中心にある。言い換えれば、霊泉を持った神社を中心に集落が形成されたと考える方が理にかなっているようだ。

また、山の麓に本殿を構える神社も、その「お山」の頂上付近に社を持っているケースが多い。

それは、山の頂はまず神が地上への第一歩の場所であり、まさに天孫降臨の世界である。また、山の頂(サミット)は周辺を三次元で見ることができる唯一の場所であり、遠くを見渡せる。飛行機やドローンがない時代、もちろん正確な地図もない時代に、上から見下ろせる唯一の場所であり、鳥の目、まさに鳥観図の世界である。

水が最初に高い場所から雨として降り、山の中に浸透し、水を蓄え、浄化し、麓へと送り出すわけであるが、山の頂が持つ天に近い場所、周囲を見渡せる場所の持つ意義が大きい。言い換えれば山自体が「ご神体」である。

(2)湧水地点に地蔵菩薩・観音様の設置が多い理由の推論として。

「お地蔵さん」はいろいろな場所で我々が目にしている。たとえば、各地の寺院の境内、村の入口、田んぼのあぜ道、四つ辻等に安置されているケースが多く、堂内の安置は少ない。つまり、路傍に多くみられる。そのことは庶民信仰の表れとみるべきである。自然への敬愛の表れであり「道祖神」的な「道ばたの神様」である。

自然への崇拝、生活の根源である水への感謝として地蔵尊を祀ることは、未来を担う子供たちへの希望、願いを込め、各地点とも数体安置しているのであろう。

また、奈良時代以降の為政者の施策であり国内統一の指針である仏教の普及に伴い、新しい文明の仏教と従来の神教の「神仏習合」が図られていたことが、地蔵尊、社、観音様を祀っていることから伺える。

（３）河川の物流・交通手段としての水利用も大きかったのでは

古人は輸送手段として「船」という道具を有していた。その船が活用できるのは水あってのこと。つまり「河川・湖・海」での大量物流手段と交通手段であったはずだ。「水」の調査中に訪れた湧水場所でも、「昔、この川で琵琶湖まで物資を運んでいたんだ」という話を聞いた。琵琶湖自体でもあるが、流れ込む河川が物流・交通手段として利用されていたことを改めて知った。

今、見るとこんなところを舟が行き来していたとは信じ難いが・・・例えば醒井の地蔵川、八幡の蛇砂川など

野洲川・愛知川の奥流域は、伊賀、鈴鹿の山々からの天然木材物資の供給元であった。比叡山延暦寺の仏閣建造材として木材の供給元は、伊賀が中心であった。そのわけは、天然木材が豊富であったことは当然として、運び出すために「川」の力が使えたからなのだ。京都・大阪への重要な木材・石材供給源でもあったことも納得がいく。

６　水質の測定調査

湧水の調査時には簡易的な水質確認も行い基礎データーとした。

写真－1に示す測定治具を使用し、測定時の天候・気温・水温・ｐＨ・ＴＤＳ・ＥＣ値を測定した。

写真－1

pH　水素イオン濃度

７．０が中性　７．０以下酸性　７．０以上がアルカリ性を示す。

ＴＤＳ　（Ｔｏｔａｌ　Ｄｉｓｏｌｖｅｄ　Ｓｏｌｉｄ）

一般に硬度の尺度として使われ、溶解物質濃度をＣａＣＯ$_3$値に換算しｍｇ/Ｌで示される数値。日本での呼称は０～１００が軟水１０１～３００が中硬水３０１以上が硬水と分類されている

ＥＣ　（Ｅｌｅｃｔｒｉｃ　Ｃｏｎｄｕｃｔｉｖｉｔｙ）

電気電導度μＳ/ｃｍで表す。溶解物が多いほど電気を通し易い性質からＴＤＳとほぼ比例の相関で推移する。

なお　参考値として　県内の上水道４カ所　一般に市販されているミネラルウォーター７点についても同条件で測定し結果を**表－１１**に示した。　　表－１１

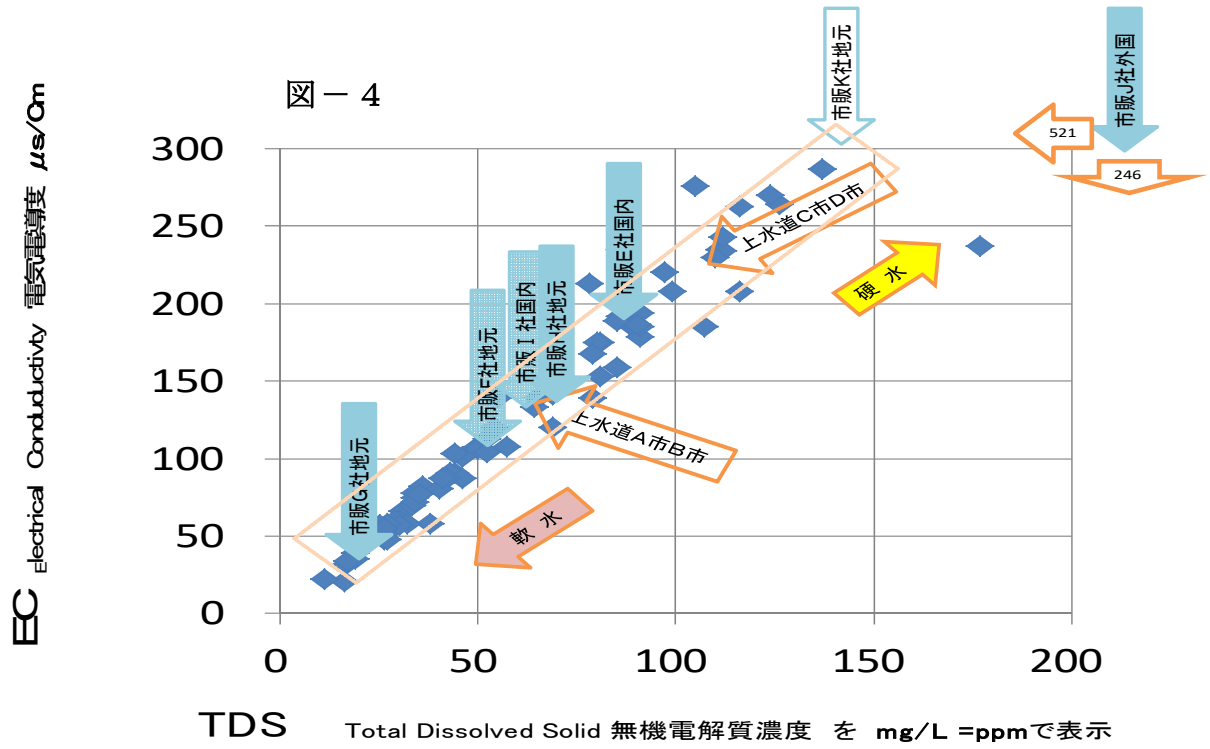
NO	調査日	名　　称	気温	水温	pH	TDS	EC
1	2018.1.27	上水道　A市	16.3	12.1	7.6	63	132
2	2018.1.27	上水道　B市	16.3	14.3	7.5	65	132
3	2018.1.27	上水道　C市	16.3	14.3	7.4	112	235
4	2018.1.27	上水道　D市	16.3	14.3	7.8	122	251
5	2018.1.27	E社国内製	16.3	14.3	7.4	85	180
6	2018.1.27	F社国内地元製	16.3	14.3	7.2	55	106
7	2018.1.27	G社国内地元製	16.3	14.3	7.0	19	39
8	2018.1.27	H社国内地元製	16.3	14.3	7.3	69	136
9	2018.1.27	I社国内製	16.3	14.3	7.9	61	129
10	2018.1.27	J社外国製	16.3	14.3	7.9	246	521
11	2018.2.26	k社国内地元製	12.0	17.3	7.8	144	304

（１）県内の代表的な湧水の硬度と水道水・市販ミネラルウーターの比較

全測定点について硬度を示すＴＤＳとＥＣ値の分布を上水道水・市販ミネラルウォーターとも比較して図－４にグラフで示した。ＴＤＳとＥＣの関係は若干の振れ幅があるもののほぼ比例の相関にあることを確認した。

湧水はほぼ全サンプルが軟水から中硬水（軟水に近い側）の範囲にある。上水道は地域が近い２カ所づつがほぼ同水準の水質を示している事が判る。また市販のミネラルウォーターも採水地が国内の５社品については軟水レベルにあるが　採水地が海外の１社品は中硬水の値を示した。

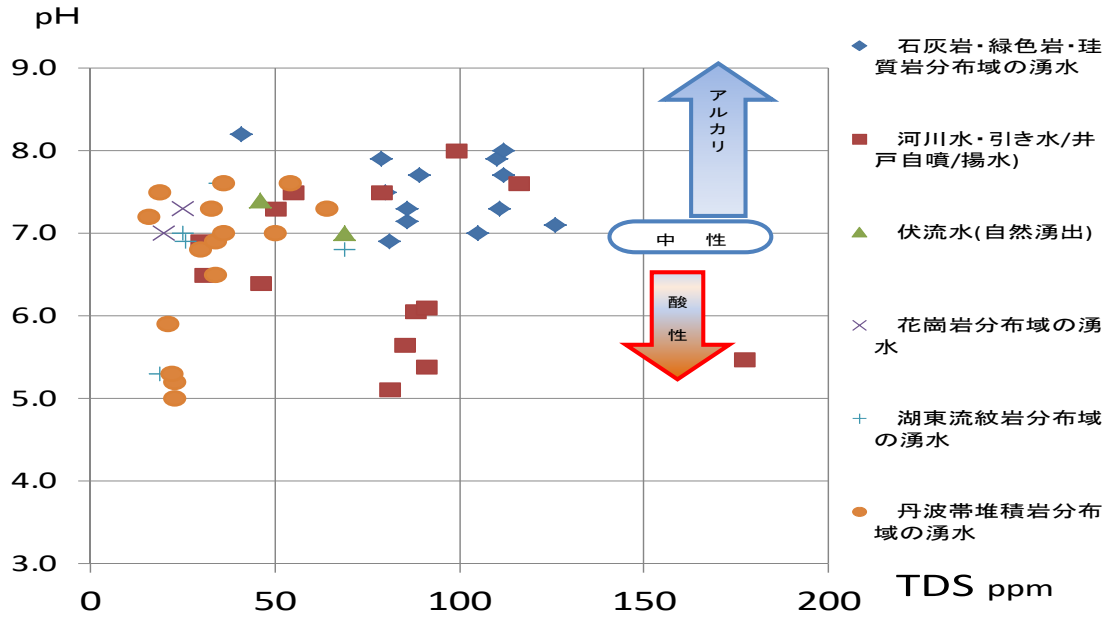
参考として　県内冷泉地（加熱して温泉水として使用されている）で採水したサンプルはアルカリ性・中硬水域（ＴＤＳ２９２、ＥＣ６２６）にあることを示した。



（２）湧水付近の地質と水質の関係について

今回の採水地点で、別途引用した県内の地層図と照らして、対応が取れるデータをｐＨとＴＤＳの関係で地層別にプロットを試みその結果を図-－５に示した。

図－５



専門的な知識が不足しているので詳細な考察は省略するが、比較的ｎ数の多い中では石灰岩・緑色岩・珪質岩分布域に属する地層域の湧水がアルカリ性・中硬水域に集中して分布している。（図中の◆プロット点）また、丹波帯堆積岩分布域の湧水にはＴＤＳ値が低い軟水域に分布するものが多くみられる傾向もある。（図中の●プロット点）＊地質データは後述する引用文献 8)より引用した

７　水と密接につながる酒造業と湧水について

図－６

県内には酒造組合に参加する酒造メーカーだけで３２社にも及ぶ

左図－６参照

当初　その発祥は中世の街道筋の宿場が需要の源で、水源が確保された地点で始まったものではないか?との推論から始めたが、メーカーへの訪問とヒアリングを通じ中世以降、確実に年貢が確保できることから、時の為政者から酒造免許を与えられ、地域を限定した商圏内での酒造業者が存在していた。

言い換えれば、村に一つ程度の酒造業者が存在し、地産地消型商いを行っていた。当然村の中では中心的な家系であり、今につながっていることが明らかになった。

また、酒造りには原料の「米」と「水」が重要要素であり、湖西岸、鈴鹿山系の伏流水が利用できる近江平野に多く存在し、旧街道筋の宿場町の需要も多かったと推測される。

現在でも、仕込み水として各酒造会社は自社内の井戸より「水」をくみ上げ利用している。仕込み水以外でも瓶や釜の洗浄等で多量の水が必要なため、その用途での利用価値も大きい。

日本酒の需要は激減しているが全国区大手メーカーも含め、新たな需要開拓の努力は日々行われており、均一ではなく特徴のある酒造りでの生き残りを目指している。元来、県内メーカーのような地域限定型の商売が日本酒メーカーの基本であり、豊富な水と、各蔵たゆまぬこだわりの発酵技術・原料米・地元密着の資本が日本酒文化を守っていることが判った。また、酒造メーカー数は全国でもベストテン内に入る隠れた酒造りの得意県と言える。

８　水と共生する集落の実態について

古より「水」によって育まれてきた生活文化の実態調査として今回一連で訪問した中で特に印象に残る三ヶ所について、その実状と気づきを下記にまとめる。

（１）　米原東草野の山村景観

滋賀県の北東部、伊吹山地の西麓を南北に流れる姉川の上流域一帯は、東草野と称され、谷筋に沿って南から吉槻（よしつき）甲賀（こうか）曲谷（まがたに）
甲津原（こうづはら）の４集落が点在する山村地帯である。

県内の重要文化的景観地域は現在６ヶ所であるが、東草野以外はすべて琵琶湖に近い場所であり、水辺景観が売りであるのに対して、琵琶湖の水源となっている山間部が指定されていることに大きな意義と、魅力を感じた地域である。

＜当地区の主要産業＞

農業が中心であるが、西日本屈指の豪雪地帯でもあり、冬季には各集落ごとに特色ある副業が営まれていた。甲津原が麻織物、曲谷が石臼、甲賀が竹刀などである。

伊吹山系は伊吹山を中心とした石灰地帯と国見峠以北の花崗岩帯に大きく分かれ、吉槻付近より北側が花崗岩地でこれを利用した石仏、石塔や石臼づくりが盛んであった。こうした副業の産物は、東西の峠道および南北の姉川沿いの往来が交差する交通の要衝であった吉槻を中心に物流は動いていた。なかでも七曲りの峠道は物流の中継拠点であった。

＜生活、文化面＞

当地区の民家の特色は、玄関が南向きに建てられていることや、積雪時にも作業ができるスペースとして「カイダレ」と呼ばれる長い庇を設けていること。集落内には「カワ」「サワ」「ユカワ」などと呼ばれる水路が張り巡らされ、各家の敷地内にはその水を引き込んで貯水する「イケ」や、水路を堰き止めた「カワト」と呼ばれる洗い場があり、それらの水は融雪にも利用されている。

＜４集落の心のつながり＞

浄土真宗の風習である「廻り仏」という仏教行事の継続にある。信仰対象の御影を

地域内で循環して法要を営む「廻り仏」は北の甲津原にある行徳寺から各集落を回り、南の吉槻の光泉寺に戻ってくる方式により永年深くつながっている。
＜今後の展望＞
　これらの地域は高齢化と人口減で昔日の歴史が日々消滅していく運命にある。
しかしながら甲津原地区には関西エリア最大級の規模を誇る奥伊吹スキー場があり、道路整備状況もよく人気がある。グリーンシーズンも広大なゲレンデや駐車場を活かしたモータースポーツなど各種イベントも行われている。つまり集客に対しては魅力的なスポットであり、その流れに当地区の歴史的遺産やパワースポットである二つの滝などの観光資源を活かして、活性化のために官民あげて取り組む必要性を痛感したところである。

（２）　奥びわ湖菅浦集落の歴史と水の関わり

　菅浦は、奥琵琶湖と呼称される琵琶湖の北端に位置している。菅浦は大浦荘の一部であったが、平安時代に大浦荘から自立。葛籠尾崎の先端近くで営まれた集落であ

写真－２現地調査時に西の四足門で

る。背後の山地が水際にまで迫るため、平地が少なく、田畑がほとんどなかった。その為隣接する大浦に近い「日指・諸河」の領有権を求めて、室町時代に大浦荘と争いが起こり、約１５０年を経てようやく終結し、菅浦に帰属した。
　この戦いを支えたのが村落共同体であり、今も「菅浦惣」の自治組織として残っている。集落から遠い、この水田へ、人々は、往復船を使って峠を越え、水田の耕作に行った。また刈り取った稲を、菅浦に運び、湖岸に干した。湖岸には各家々の決められた干場があった。
　しかしながら米の自給率は、3割に満たず、7割は他所から麦穀を購入していた。また「油桐（アブラギリ)」と言う植物を栽培し、実を絞って油として利用する。油実は船で塩津に運ばれ、各地に販売され、菅浦の大きな収入源となった。
　菅浦背後の、標高 470mに及ぶ日計山系が冬の季節風の侵入を防ぐため、南に面する山地斜面は冬も湖北特有の雪も少なくビワが育ち、養蚕の盛んなときには桑の木が植えられ、明治以降にはみかんも植えられていた。今では野生のサルのエサにもなっている。
　現在の菅浦は、湖岸から須賀神社に向かう場所に、西の四足門　集落の途切れる東

端の地に、東の四足門の２カ所が残っている。「四方門」と呼ばれかつては４カ所にもうけられていた。これは村に入ってくる外来者の監視にあたったと言われている。また湖岸沿いには高さ１ｍから1.5ｍの石垣が、湖岸や道路に沿って、直線的、かつ垂直的に積み上げられている。これは、瀬田川に洗堰がなかった時は、琵琶湖の水位は変動しやすく、満水時と渇水時とは、約１５０ｃｍの差があった。その時代にはすでに　このような石垣が築かれ波から集落を守ってきた。

菅浦には、淳仁天皇が、保良宮を営んだと言う伝説があり村の扇状地の、扇頂部に須賀神社が立地している。この神社には、淳仁天皇が祭神として祭られており、神社の背後には、淳仁天皇の墓と伝えられる箱形御陵がある。また本殿横には山からの水源とした、小出川が村の中央を流れており、村人の水源として利用されていた。現在は、治水のため、須賀神社参道の横に、付け替えられた。麓からは、豊富な水がわき出ており、細い水路となり、集落の内部を縫うように走り、浜から離れた人の重要な水源となった。

ハマにはウマと呼ばれる一枚板の桟橋状の洗い場が、数ｍの間隔で、湖中に設けられていた。人々は共同で、水を汲み、顔を洗い一日の生活用水としていた。

（３）居醒の清水呼ばれる醒井地区の水との関わり方

中山道醒井宿は、日本武尊の熱を醒ました伝説の湧水「居醒の清水」がある郷である。中山道６１番目の宿場町で醒井の地名となった「居醒の清水」を源流とした地蔵川の流れに沿って、今も風情ある街並みが続いている。全国でも珍しく、宿場を切り盛りした施設「問屋場」が昔のままの姿で残っており、往時の賑わいを伝えている。

また夏の間、居醒の清水を源流とする地蔵川には梅の花そっくりの水中花「梅花藻」が無数に咲き乱れ、涼しげに揺らいでいる。この「梅花藻」は水温が１４℃前後の清流しか生息しない、まさに貴重な「湧水の妖精」と言える。
梅花藻は絶滅危惧種の「ハリヨ」の産卵場所にもなっている。

醒井宿の歴史資料館（旧醒井郵便局を国登録有形文化財として管理している）訪問時に館長さんから　住民のこの地域に対する深い想いを聞き出すこともできた。

地蔵川沿いには、「居醒の清水」「十王水」「西行水」の湧水群があり、湧水の郷そのものである。川魚料亭も点在しており、地蔵川には川魚が生け簀の中に、また甘露煮、白あんの六方焼き、ヤマキの醤油屋と名水を利用した店が自然の中に溶け込んでいる風情であった。

少し足を延ばすと鈴鹿の名峰、霊仙山からの伏流水である宗谷川、丹生川の湧水スポットもあり、まさに「居醒の清水」感を十分味わえる場所である。

昔は、地蔵、宗谷、丹生川の流れを利用して米原湊まで廻船での物資輸送が行われていたようだ。

このスポットは、日本の原風景そのものであり、大きな観光スポットとすべきものではなく、訪れる人々の心を和ませるところとして、そっとしておくところであるのでは？と感じる。

全てが湧水の如く、自然に生かされていると思う住民の意識こそが原点では。

★　ゆったりと時を過ごしている地域住民の「想い」「居心地」を訪問者も共有すべき場所。
★　時をかける時間を減速してみようと思える場所。

９　課題学習活動を通したメンバーの想い

湧水ツアーにおいて、現存する湧水の中でまだ勢いを保持している湧水、何らかの事情で存在感が薄れている湧水、その使命を終えようとしている湧水など、いろいろな湧水と出会ったが、どの湧水も浮世を象徴しており、捨てがたい魅力を感じ、維持の必要性を痛感した。特に、琵琶湖に注ぐ最北端の水と言われる深坂地蔵掘止めの水や、湖北の古刹曹洞宗洞寿院の境内は、古人の郷愁を感じるに余りある対象物であった。湧水ツアーでこそ得られた貴重な体験をした。　**（杉田）**

滋賀県は日本の中心に位置し、琵琶湖は滋賀県の中心に位置している。湖畔は重要な陸路の街道であり湖自体も重要な海路であった。つまり滋賀は日本の大動脈、旅人の喉を潤し、牛馬の飲み水として利用され、街道沿いの湧水を見たら、人、牛馬、荷物の往来が目に浮かぶ。しかしながら、生活様式、交通手段が大きく変わりその役目も変わろうとしている。今後、その豊かな水資源の利用方法を考えさせられている。**（井ノ口）**

滋賀県の魅力を再発見させていただいた。気候的にも湖南の温暖な気候から湖北の雪国が同時期に見れる。日本の縮図的感覚でした。歴史的にも重要な位置を占めていたことにも驚嘆です。さすが近畿の水がめである琵琶湖、水がめだけではすまされない色々な役割を果たしている「母なる琵琶湖」に更なる未知の魅力を感じました。特に今回は「水」がテーマであり、改めて自然の中で生かされている私たち。自然は私たちをどう見ているのだろう。何ができるのかな？このままでいいのかな？
そんな想いも持ちました。　**（小篠）**

生活の基盤であった各地の湧水も、周辺の開発や湧水口の放置が続けば枯れてしまう現状を見た。他方では地域の精力的な管理活動に守られ活用され続ける水や、美味しい天然水を自由に振る舞っている湧水も見た。生活用水として、琵琶湖に流入する川の上流水源地帯で、上質の飲料水を確保する対策と、反対に営みの結果生じた下水への負荷を最低限に抑える努力が水管理の基本と痛感した。　**（寺澤）**

日々の暮らしで当たり前に利用している上水道、水はすべての命を育むかけがえのないもの。水を大切することは全ての命を守るということにもう一度目を向ける必要がある。地域の水資源を訪ねる度に古人の水を崇める心と培った水活用の手段を後世の人々に伝承して行かなければならないと感じた。　**（中場）**

幼い頃は各家に「井戸」が存在し、湧水も存在していましたが、インフラ整備と共にいつの間にか姿を消しました。今回の湧水調査で多数の湧水地点と井戸の存在を確認しました。それぞれ特性があり、貴重なもので大事にしたいものです。また滋賀の奥深くまで探検出来、改めて滋賀県と琵琶湖の大きさを実感しました。大変有意義なグループ活動でした。　**（中村）**

１０　まとめにあたって

私たちは県下 92 か所（89 地点）の湧水の存在場所の実態調査を通じ、古人の水とのつながり、結びつきを独自評価も踏まえて一覧表を作成し、知り得た事や仮説も展開した。また、水との共生生活を堅持している地域文化圏で「水」へのかかわり方も多少であるが考察してみた。

勿論、まだ調査途上ではあるが、湧水地点といわれる場所は、多くの地点で地蔵や社が設置されていたし、寺院、仏閣自体でもあった。為政者にとっての権威付けの格好の場所であったことも理解できる。また、人々にとって、湧水は「名水」ならぬ「命水」であり、そのことは今日でも不変である。

水の循環に支えられた命の循環がある。日常生活の循環がある。大きな水がめである琵琶湖も、元はといえば山から湧いた水である。その約２７３億トンの流水は５年で循環を繰り返していることで、その鮮度を保っている。

琵琶湖に流れ込む川の源は、滋賀県を取り巻く山々にあり、山林管理の重要性もまた不変である。流域に暮らす人々は、厳しい自然や人口減少と向き合いながら水の恵みに感謝し、山、水、を大切に守り生活に活用してきた。

これらの地域のお祭りは、自然の豊かさや水の恵みに感謝すると同時に、水の争いをなくす意味も含まれていたようである。

琵琶湖の恵みを享受しながらも、琵琶湖の持つ自然との闘いの中で暮らす人々や、山間部の豪雪地帯で生き抜いてきた人々など、それぞれ地域は異なるが、先人の創意工夫、切磋琢磨により極めて合理的かつ永続的に使用可能な水利用体系が築き上げられていることを再認識した。

上水道の普及が水の利用方法を大きく変えたが、この水に基づく文化や遺産を損ねることなく、守り、つなげて行くため、無理をせず、地道な定点観測で得た生の情報を、広く発信して、共有化してゆく努力こそが我々の使命である。

１１　参考文献

① 東方出版　湧き水サーベイ関西編著　湧き水めぐり１
② 石川　亮　近江の水をめぐる　湖国と文化１５２号
③ 環境省　滋賀県の代表的な湧水　　湧水保全ポータルサイト
④ 京都新聞出版センター　名水を訪ねて　京都滋賀健康ウォーク
⑤ 滋賀県酒造組合　滋賀の酒パンフレット
⑥ パ酒ポート事務局　パ酒ポート２０１７近江の地酒版
⑦ コロナ社　改訂滋賀県の地学ガイド(上)(下)
⑧ 滋賀県砂防課　滋賀の砂防　滋賀県の地質図
⑨ サンライズ出版　近江旅の本　滋賀・びわ湖水辺の祈りと暮らし